俳諧
今四家句集
下

へ 5
4628
2

門 へ5
號 4628
卷 2

俳諧今四家發句集秋之部目錄

初秋	七夕	鬼灯	迎火	掛行	踊	盆	日ぐらし	秋蟬
むし	蚊帳	蚊遣	夏柳	稲	八月	十六夜	秋の日	秋日和
秋の雨	秋の秋	秋の野	秋の月	稲妻	秋風	秋の雲	秋の空	秋の雁
秋せい	案ぐら	末摘	朔良	女郎花	萩	秋の夕	秋の月	秋の蝶

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏寄贈

さぬさ	了	結	咏歌者	鶉	秋の魂
時	庶	法水	摧	業	和漢
淺の月	秋の雪	月秋			

京都長谷園秋芹著述

近世五家俳句集

全二冊 近刻

この五家は俳句の中興の祖なる蕉門の風調を慕ひ俳句の研究に熱心なる人々なり

俳諧世五家句集

全四冊

蕉門の俳諧を中興せしめたる五人の歌を選び録し世俗の蕉句を信ずるの風潮を矯めんとするものなり

俳諧今宮蕉句系統

浜 碌亡共成輯

初秋

蒼虫

まゐる秋や秋ふる情ふる人

、

さゝ屋のうけ戸ふせてうしろの秋

、

まゐる秋や先うるふや白子浦拾遺

、

うしろの秋ゆくまふるかゞの影

、

江乃島乃と柱にまうる今の秋

木海

さう秋の秋は物ふり李嶺乃あ

雪好

秋の立秋や蕉乃影

、

秋のまゐる物ふ入江或

[illegible]の[illegible]秋来ぬと見るや[illegible]
[illegible]のかゝる[illegible]

万和

七夕

[illegible]一[illegible]

蒼虬

[illegible]川の上[illegible]

[illegible]

[illegible]

七夕や[illegible]

雪旌

魂祭

[illegible]の[illegible]

木海

[illegible]

雪旌

[illegible]の[illegible]

待

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

盆

[illegible]

木海

[illegible]

雪旌

[illegible]

[illegible]

万和

はらはらしぐれて秋ひのそよ枕　木海
日くらしの鳴やそよ葉の水　〃

秋蟬

秋の蟬鳴しおそはるゝなる　木海
情にうんとさそふ秋の蟬　雪姥
夕ゝ鳴ハ声多ゝ秋の蟬　〃

むし

淋かれ夜ふけ来る虫の声　蒼虻
ものや大名ひとし虫の声　雪姥
後枕て行方なしやきりゝす　蒼虻
行燈にあひ来てなるまの　〃

火ゝあ行くゝ多ゝなるゝ　木海
たゝゝ鳴ゝ多ゝ鳴の門表へ　〃

桐

焼場の煙とうたふ一義武　雪姥
桐の義ふの二口ふこ義ふ義事　〃
桐一本ゝゝと義と書かれし　蒼虻

木槿

中ゝゝふ義ゝ義ゝ義ゝ義ゝ木槿　〃
祖父濃ゝの義ゝ義ゝ木槿　〃
叶ゝこの枝形ゝ世ゝのむ木槿　〃
一里日ゝ木ゝ槿ゝ義ハ是ゝゝ　〃
又おりゝすゝなゝゝゝ木槿　雪椎

堀れうゑて氣のそる　木槿うゑ
ぬ　垣ゑうゑハ煙も末ゑ　木槿　木海

雄鳥

雄鳥にまゝ母の秋をそゝ　蒼虬
雄鳥や乞ゑの世をとり戒
雄鳥に孫の白ひハうゑ
くゝ程う海人ゑ雄鳥なゝひ
雄鳥のくゝ川ゑ住ゑ　雪旌
雄鳥乃ほゝ
雄鳥や夜さゝ
雄鳥ゝ　寄
雄鳥や庵ゑ

稲の風

稲の風ハ実ゝ
鳥ゑ
うさゝ
うさゝ日の月を通ハ
朝ゝ
朝鳥のいゝ
朝鳥と寄と

木海
万和

萩

川人の新さ
ゝと
萩の咲
笑の戸乃貴

萩乃垣
蒼虬
山の萩
雪旌

二分咲て一分こゝ有ぬ萩の花　雪旭

折て見る萩とも花ゆゑあるとゝ

賀茂紙乃萩の花

賀ハ如萩ちらの古ひまをうて遠　木海

須ちみと山ゝ須て萩の花

泊乃花人も任こ萩の枝し　万和

下葉ゝ枯ゝ萩の枝ねゝ

朝〳〵や萩も水も萩の中

女郎花

夕〳〵ゝ女郎花ゝ　蒼虬

女郎花ゝ山の尾ゝ花ゝ　雪旭

折ちゝ折〳〵て文ゝ如ゝ

水ゝ流ゝ女郎花ゝ　万和

折ゝ花ゝ女郎花ゝ

・帝〳〵ゝ

帝〳〵ゝ　蒼虬

花ゝ山ゝ小ゝ唐かし

蔦

つ紅合に春ハせゝ萩の白　木海

杉に蔦文の霧を新むし

萩　柳

立ゝ年〳〵年〳〵萩　雪旭

稲雀

夜ハ捨て頼もしたのむ稲すゞめ　雪雄

すゝき

見すかしぬ明てハ出船ちらし芒　蒼虬

秀にかれてく鴨船すゝき哉　、

行かふやすゝき列波の川のすゝき哉　、

山伏の螺に志ほるゝすゝきかな　、

戸口から雉子の出てくむすゝきかれ　雪雄

暮かゝる白帆ふらつくすゝきかれ　、

芒明とまくり行きて芒かな　、

鍋少便を明かるす角でもすゝき哉　、

尾花ある山なかりけり李　、

鶴の月のとしすゝき花そ哉　、

うたゝ秋の雲しに新すすき哉　木海

としはやすゝきなるむすぼし　、

芒原てかゝるさの枯わしらう　、

志かれハ月の光もれぬ芒かな　万和

夕くれの雨そ音しハ松芒　、

引水を中にしてとをり芒かな　、

霧

富士ゆりて雨降り山の霧　木海

夕霧やとゝく鐘聲深子雉　、

稲妻

稲つるや菜やすゝし宵の空　蒼虬

芦の中ハ稲妻の小ふる哉　、

稲妻の一ぱつ[illegible]の多波伊ふ[illegible]雅、
稲つまや夜あのようなりとい[illegible]面ふ　雪旌、
稲妻や門を大るる[illegible]かな面　蟾、
稲つまや鯛の[illegible]面を割ぬふ　木海、

風

ほんと鯉のまるさや秋の風　蒼虬、
夕涼て人カくる義てあるよ秋風、
人物ふてくるまるや秋のうを　雪旌、
病なのれ[illegible]雪の秋のうを、
山黄や鯉とく先乃秋のうを、
[illegible]なるや小[illegible]弁　沖の風、
[illegible]ふ山[illegible]て[illegible]、

[illegible]て[illegible]の三井の[illegible]、
[illegible]ふ[illegible]秋の風、
蟬[illegible]に[illegible]秋の風、
[illegible]　桂[illegible]秋乃風　木海、
[illegible]と夜[illegible]入[illegible]秋の風、
葉[illegible]なし老の[illegible]秋乃風、

雪

人[illegible]ぬ[illegible]山乃雪　蒼虬、
大寺[illegible]稲の雪、
[illegible]雪　雪旌、
鯉鯛ハ行[illegible]雪　木海、
[illegible]の[illegible]ハ

[illegible]

八朝

[illegible]　雪雄

[illegible]　木満

夜

[illegible]　雪雄

[illegible]　木満

[illegible]　雪雄

[illegible]　蒼虬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　雪雄

名残や冬木立ちなる人の威儀　芭蕉

汁の実を掘や夜寒の行灯業　同

名残や小門ふさぐ一日の雪　雪柱

冬籠り窓打ちあるる丈の雪　同

古行灯笠ふるうに残るいとあや　同

冬籠りして連てなるのうるの夜　木海

家の後そしらぬ顔の乃夜　同

古行灯八重桜夜寒　同

霜降るこ夜ひとも夜寒　同

すこうぶるこぶるふるうふる　同

みるかぶ元了あるしの月　同

冬の数を笠ふる山の上　同

移追ふ柿の木もとの月　同

冬ふる木枯ふかるる枝ハ　同

秋の数乃冬ハちらるのを　同

笠かるの月に引く入て　同

湖八景二の古ふ乃冬夜寒　同

いるるて家おるるる枝の月　万和

名月や世ハ月ふの夜すふ　同

木のはしも拾ふるもるる月　同

十六夜

十六夜やたまう切ふ目の雲　同

秋乃日

秋の日影つゝまるゝ程の縄　木海

秋の日乃くゝるゝ程の縄の長

秋日和

世ハよく秋の末に雑も秋日和　、

秋の声

山の井の底の底も秋乃声　、

蛍の夜

秋の夜乃ゝれにまけぬ蛍　蒼虬

秋の雲

秋の秋幾ゝ入日こう秋　、

秋。白

陰白に秋水秋氣交ゝ乃　木海

陰白の小糠み俤と秋ゝ　、

秋の白ゝ秋ゝ夜のゝ乃ゝ　、

ゝゝ乃花

息木なるゝ程を俤の業　雪旌

萩

ゝの萩ゝゝゝゝ声ゝ　蒼虬

ゝ風呂の中ゝゝ色や萩の影　雪旌

海士ゝゝの釣ゝ海ゝて萩の声　蒼虬

月秋ゝて小塙ゝゝ萩の竜　雪旌

萩あれゝゝゝゝゝゝ　一方和

ゝ秋ゝゝ

ゝの声乃ゝ秋ゝ　木海

木犀の香や酒の酒も悟の会　雪旌

若葉

明るさの雲ふつかゝる山　雪旌

夕の雨の紀乃かゝる分　木洲

さめ〳〵

入江のうらうらとして夕　雪旌

多の白の新もゝ苗ぬきぬ　木洲

新しく湾てもゝ苗　〃

ちらし日もそゝれとふ　万和

雁

下駄や横ぶ雨乃山　蒼虬

土塗ぬ下駄や声の美しさた　雪旌

傘も涼まて　〃

田もゝ細て一町ちゝ日も乃声　〃

細行ゝ乃ゝ儀て八ゝ乃ゝ　〃

涼うゝ八ゝ訓後ぬ雪の下　〃

ゝ〳〵九里の中ゝ和下の影　木洲

下金に訓てゝ海ゝ　〃

下乃ゝ乃ゝ　〃

賜

移ゝ芋に言を変ゝ　雪旌

ゝ乃ゝ移ゝ中を移の新　〃

移ゝ中ゝ　〃

ゝ乃の竹　〃　木洲

啄木鳥　雪旌

いうかけて啄木鳥　雪旌

鶯

入日の紅さやうやう消ゆ　秋帰

人中ふかしづかに秋乃帰　〃

時雨

夕風ハ〃もかやう時の来る　〃

鹿

江をへだつる清流荒の声　蒼虬

夕山を下る雲荒乃声　〃

時雨ぞ一筋ゆくも鹿の影　〃

出稲をかりてゆくや泉の荒　雪旌

新宮を出るゆ拝ゆ荒乃声　〃

荒時や拝ゆる風とゆく井　木海

流　水

無口乃ゆゆを流ゆ流の音　〃

ゆゆ日を出て出る八流の音　〃

夜ゆ入を待ゆ流水時　〃

椎

椎茸を干ゆ本石井し　雪旌

茸

茸の日や片山撫鳥ゆ出ゆ時　蒼虬

椎茸一世ゆ茸乃時茸　〃

菊花の書ふさしたるもの、
物さびのあふ坂よりのこさしの花、
ふるさまや一霜して夜をうたく、
ふるのゝあやしと迷ふかりねさ、
啼ふるかさ枯そらふる菊の色　雪雄
枯ふる枯ふ計にさりふるはさ、
坂の枯ちゝ必しふるふん、
ふるふるんふるてもぬる春、
山ふるてもふしの秋を堂の春、
手枝共月ふ秋ふる乃豊ふる、
ふるふるふる夜ふ堂ふ第ふる、
白の海ふふ中ふる乃白ひふ栗、

ふるに川ふるふるの豆ふるや　木海
ふる度のふらふふるふる花、
ふる乃ふるやふふふふふふ、
ふるの口乃明日ふふふふ難、
咲もし一ふふふふ小雷ふふ　万和
白ふふふふふふふふふふふ、
ふふふふふふふふふふふ、

紅ふふふふ

此頃ふふ度のふふふふふふふ　雪雄
ふふ代形ふふふふふふふふ　蒼虬
ふふふふふふふふふふふふ　万和
ふふの度

かりがねの初音聞やいなの原　蒼虬
ゆくすゑやいとゞ雪なる後の秋　雪旌
萩の戸ゝこゞ見ぬりや時雨　〃

秋の雲

色掃はゝ紅淋し一秋乃雲　蒼虬
雲ゝ焼ハ人乃まぶたの色　〃
秋の雲初ゝて立ゝ人も立　雪旌
空ゝ晴ゝ焼ハ焼ゝ秋乃雲　〃
浮雲ゝ秋ゝ高ゝ秋の雲　〃
月ゝ初ゝ秋ゝ桜ゝ秋乃雲　木洲
西ゝ行の秋ゝ雲ゝ桜ゝ　〃
雲の色ゝ秋ゝ秋の雲　〃

川ゝ原ゝ明ゝ月ゝ秋の雲　〃
月ゝ雲ゝ山ゝ西ゝ秋の空の雲　〃
雲と白ゝ雲ハせて秋の色　万和
毎日の秋ゝ雲ゝの夕ゝ　〃

行秋

川秋ゝ暮ゝ秋ゝ暮ゝ空　木洲
行秋ゝ空の澄ゝ雲ゝ秋ゝ　〃
雲ゝの秋ゝ雲ハ雲ゝ水　〃

俳諧今昔集句集秋終

俳諧今昔集句集冬之部目錄

十月	時雨	小夫	若忌	夷講	紙子
小春	埋火	火桶	炬	さむさ	冬籠
落葉	時雨	こがらし	冬木立	びてのふ	茶の花
枯野	枯草	枯尾花	枯柳	枯芦	枯蓮
冬木立	水仙	冬至	千鳥	鳥	さゝなき
鶯	鴨	鮟汁	網代木	雪	雪
雪	雪の花	雪の日	雪の朝	雪の月	

梅	年忘	紙帽	源拂	芭蕉の人	古暦
涛之	除歌	木葉	冬序		

播州風宿長年著述

涛之除歌句集

小本 全五冊 近刻

此書は播州の人世世こゝに住み俳諧の道に尾張しの俳句を以て涛の句といふの俗にくらべたるものなり

皇都蕙畝長成著述

花雪歌句集

近刻

この書は伏見の二条の流れ永昌寺の流れにて初めて歌を学び雪の流れにて歌の道を学ぶ雪は乾坤の間を花雪と称する人なり

小本 全五冊

俳社今累歌句集 乙

活 碓定真成輯

十月

蒼虹

時雨降て杉の葉ふかき

雪姫

時雨

蒼虹

家間に神ぬれて神の白

〃

〃

〃

〃

版の流行しはじめ孝
雀時よりはあハなし流行しはじ
めしころ中ごろ紅嬉笑堂　雪旌
しらべはのうめ小梅ハ新年
年葉かひ海苔　時雨
ふるん　秋の時雨を迎　いこう茶
海ふるこゝろ　年の初
時雨降る間かな　柳或
茶ごゝろ　中ごろ時雨乃行ゆく　木海
りの時雨　ふるかなうゝ
長嘯や　のうゝなる初時雨
き信ふしくるつのもとゝ家

二時雨行のこゝろ　行や　版
時雨　ゝ　ゝ　ゝ　角田川
時雨ハ人乃ちゝ　ゝ　ゝ　小義弐
しくるゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
門ゝ　時雨ぬ　ゝ　ゝ　ゝ
丁時のゝゝ　やいゝん初しぐれ　万和
雀帰宋ハぬれすも初時雨
しくるゝ　日は　ゝ　ゝ　ゝ
百も　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
田鶴　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
庭の灯をえせて来つむしくるゝ

しらてしらてふれいそ庵末のろぐ　〃
ぬさかくてあれやしらてふ旅のゆく　〃

小春

ひたすらあやめ小春の雜木山　蒼虬
京のうめまつ里の小春うゝ形　雪焦
材の木の糸瓜うゝ接むか春哉　〃
玉谷の下て下駄ぬく小春ぶ　万和

菊忘

庵に行のひてあるこの日　木海
吹る雪や　芋ゝ笠　積よみの　万和

夷講

夷講を吉祥ゝ稲ゝや夷講　蒼虬

[illegible]の子
先いさん[illegible]子孫繁ふ[illegible]　木海
[illegible]ぬ[illegible]ハ竹のふし　〃

食

[illegible]り[illegible]食　雪焦
[illegible]の方[illegible]食　〃

堀出す

[illegible]出す[illegible]　〃

火桶

[illegible]ゝ[illegible]　〃
[illegible]ゝ[illegible]ゝ桶[illegible]　〃

炭

[illegible]ふ[illegible]炭[illegible]　蒼虬

岸に海や夜の心をとまりけり　、
岸にうつる八景世の影見えけり　、
いつはけなき身に柳の未ぬ岸の錦　、
鶯の声てりかへるやし岸依　木海
何気も鳴きめるて岸依　、
面さき乃尾にかゝりし鳥か岸依　、
寒く
露の宮乃うへに池の林の鳴すゝき　、
花咲こうてうに入りしよ角力とり　、
冬の鶴
冬の鶴かゝる家鴨の様しけり　、
和しの那の悟に友よみての宿　、

神の酒佛の光しや冬の鶴　万和
落葉に
鶏の声や峯に細の住る落葉哉　蒼虬
こし渡りの中木のまちるなかに　、
加茂の葉の落葉を分けて池の端　雪堆
新備もちぬ木の下乃陰に住み　、
鐘撞て消しの先を木の葉かな　木海
露の声もてなしくかまくら落葉て　、
くゝもりとも木のそ乃井や米俵　、
青淀の流れ中なれや木の葉に隠　、
鶴飛んで鶯を呼ぶ木の下陰　、
吹のこる紫のくもりや日影　万和

桜の花

夕ぐれの雨ふりかゝる桜花　雪旌

雫に似てこゝ白く咲つゞけ花

流れ来の痛うて散ぬ　〃

木枯

木枯の川辺の柳の散ぬ後　蒼虬

ねぐらに風ふく篠の揺　雪旌

山茶花

山茶花よりうらぶれやすき花の色　蒼虬

山茶花を椿と共に挑　〃

枇杷の花

手鞠ぬくもり和さうに枇杷の花　万和

茶の花

咲ぬうち茶の花散てゆく雪　蒼虬

茶の花や月の出の月の空　木海

茶の花や行かゝる人の和　〃

茶の花や代の出日の中金を　〃

茶の花やもゝふるまふて志ん殿て　万和

枯野

川辺の高ゝ低く枯野哉　蒼虬

莖さゝ汁ふ茶一かぶの哉　雪旌

夜よ入て皆山なる枯野哉　〃

傘を抱て出ぬ枯野哉　木海

枯〳〵の水や枯野一ぱい　〃

[illegible]の名は桂川とつけるなり、

[illegible]小鮎　万和

[illegible]　桂

[illegible]　蒼虫

桂尾寺の[illegible]　木海

[illegible]の[illegible]桂尾寺　万和

[illegible]桂尾寺

桂　柳

[illegible]の川[illegible]桂[illegible]　蒼虫

桂　[illegible]

[illegible]の[illegible]　雪旌

桂子

戸の内へ[illegible]桂[illegible]　木海

追[illegible]に[illegible]

[illegible]の[illegible]桂の[illegible]　万和

[illegible]

人[illegible]　蒼虫

[illegible]　木海

水　仙

[illegible]仙　桂[illegible]

名　玉　木海

[illegible]の田[illegible]の[illegible]　雪旌

子　[illegible]

[illegible]川[illegible]　蒼虫

有明の月人絶るちりう嶽、
川ぶ八柳　もみ形て時雨ふり、
三筋やの家に手の夜の沖田、
弓時のたつ弓くもあ手くうる、
ひ手ぶ絶くもるとやー星ひ　雪堂
茅屋の秋ふ月とさ時雨秀、
くりへ友ち列ちちりうる、
樓の実の三粒と紙を時ちり、
十六夜の雲と多乃世白武　木海
月くりーこの新ま名秀、　万和
かをえんとすれと嵐の千年ぶ、
千年時ト中ゆに春雨、

夕秀
夕秀乃ぶ雲ぶ清ぶ日東武　雪堂
枕ち秀言ーうう秋者、
水秀ゆ　さめ秋ぶ赤の言時　木海
秋秀も京な秀と計りの秋、
くさわ力
乗先の夜夜ふ力ぬ秋さ力　雪堂
雪秋ぶ清ぶ秋に時て秋力、
木屋町の世帯　ふまくみさ力、
記ー　秋月小ちいさー　みさ力、
陸ぶ清ぶ考ぶ、八ぶて秋さ力、
水の中鐵乃夫ぶ秋ぶ力、

水鳥

おもひ羽の帆によそる也鴛鴦の浮寝哉　雪雄

終夜のおもひ兒啼や鴛　蒼虬

鴨

乃人さゝの江や葦根の引入鴨、

鴨一羽ゆきや一羽ハとびも新　雪雄

終引の浪に夜、嗚て鴨の声　木海

金の鳧負ふ也野ハ荒り、

眠ゝや寝しれし者も寐、

鰒汁

鰒汁や此夜枯野ゝ夜も浅　蒼虬

あゝけふ三郎の二度羨ふ林もなし　重雄

遠く谷鐘つきあへて市の鐘、

月寒や鐘も舟よりむしろかげ　方和

網代守

網代守夕暮ゝきて月の出り、

網代守さうのくりなし旅くし浮分　木海

夜さゝ月も日本のふ網代守　雪雄

夜舟しやも見えなし網代守　方和

雪

大雪や降まりたる籾の臼、

身寒きさきしても雪もる旅哉、

雪もえてみえてみや山の沙、

降ハ雪巻々の清水ハ寒けり、　木海

きしけめく降る雪乃ゆゑ武
雪ふるとみる新そ身夜工来る鬼
意乃菜孫下て　赤て雪にて見
雪のりや歯と今ふ新い之むす
ふん雪や山　ふ橋ふ見ふを
大根を紅けて入ふや　雪の宮
雪京や京又なふ八泊ふふ
雪京ふやふふふふ　形ふふ
雪のりや　座紅ふ　結ふる　山力
よ紅紅新ふて　ふふや　雪の里　蒼
ふ新ふふ八紅ぬ共ふう　養の雪
大雪ふ雪ふ雪の新ふ

虫

みなもより雪の新や　ふ新の海
山川や　座のは和ふ　雪近し　雪旌
家ふふふ雪ふふ座や　雪ふて雪ふふ
座ふふ日八ふふめふし　泊ふ乃雪
いふけ本紅四や　雪ふ新ふふふ
ふふさ新倉座ふふ　新ふの笠
四ふふよ紅ふふふふ　雪乃恵
ま座日ふふ本雪ふふ　雪ふふ彦武
ふつ雪や人の座ふふ　八ふ行ふへ
京国八座のふ新ふふ　李橋ふ乃雪
雪稀て日新ふふふ　紅養ふ女
新の座ふのふ座ふ延や　雪新弁

見あかて先おもひきぬ橋乃雪、
蕗のまた流れ乃消たる雪夜哉、
孫寺き本立山乃けさ乃雪、
ぬれ帳て戸の継を詠し雪乃暮、
松乃雪ものたしなき胼よいあるし、
雪掃ハよしの碇ともなりつ本堂、
雪きたとし蕗乃嶋すま跡、
海苔成や雪をはらひけるす雪乃花、
初雪や今まつくハ松も引さ、
ちれ遠く雪の小藪の角、
朝しやみえとまてエ夜の雪、
裏山や月のもてある夜の雪、

万和

明ヶ屋けハさ居ぬ雪の雀かな、
雪の松の古むかし窓のもと、
かくさき笠もふんも居まし雪の跡、
ららへはも降や友まつ雪の上、
雪まちや呉竹の冬立もある居、
水をとりのすむ雑しきよ雪の夜、
朝あの雪ハ添られ藪の味噌、
雪折や積三輪深の音、

雪吹

藪垣の月も隣さへ雪ある、

霰

川水のとりおる霰のかかるなか、

蒼虬

里の行乃鶏らるれ雪夜うぶ　木海
雪乃夜袖紙屋して立て行る
菜大根壬生ハいろふと雪とろ
ゆく秋
大川雪後　雪雄
雪後隅田川すりてしけ琴　木海
冬海
咲く秋の第一社先や冬の海
冬山
月紅の豆ようれハ冬の山　一方和
冬秋夜
冬秋や紙の先ろを乃ろ針　木海

冬秋より針先ふて切りろれ　雪雄
立冬　冬月
立冬や冬ぬ浜子の蓑　蒼虬
立冬や秋つれ居一山石原　雪雄
冬夜れ〳〵家ふ時ろ冬乃夜　木海
廻板のしりり縁まや冬の夜
立ある横ふ冬けて冬乃夜
立冬梅
菊力よりの宮乃立冬梅咲ふろ
冬立
冬月秋冬ふ姉〳〵やわ立飯
歳分小松の立冬年〳〵ふ秋

[illegible]　蒼虬

[illegible]　雪柱

[illegible]　木海

[illegible]　万和

[illegible]　木海

[illegible]

[illegible]　雪柱

[illegible]

除夜

[illegible]　木海

[illegible]

[illegible]　木海

[illegible]

拗註今四家選附合之部

大雪時夜半ハ嘆ずるに計り
消ると小田を巡りて行くこと
四五歩崖の木を揉の枝葉半ばを
ものうそうして　我が胸代を
食はんく嗚呼とも　少年
御陣を　一日も　小曲の歩み
一日も　ものうそうして　詩
今歓び　義を　ふ肩　なるを
ものうそうして　ものうそうして　詩

蒼蠅
虫
蒼蠅
虫
蒼蠅
虫
蒼蠅
虫
蒼蠅
虫

みなつき膾乃本より漢
とかく源氏の式部ハ言詞を
重ね六部も附き得し教
刺刀も秋の小筆に少し慶を並
生鍋の身からさりなしにさます
流ると三子石ゟ流しと女房
癩病ゆゑまたなすかぬる柏
糞桶とまぎ為ねかの色筆
はいつまりあるも所にに入るる
ナマ
漏窯ゆやしきも喜てし斎藤ハ
善人をとあそしとなく御目のみぎり

古夏古娘まさ都子も縄りまれ
荏戸のえらぬる侭も分十條る
かう迄ハかし様子わらこえ妻候
脊井今せもいさまかきるて
醍醐ふふ乃ふ諸も潮戸も
誤者乃読ろあすけそ存り

桜もちるすす人ハ移りも勝の光
すゐとてる人愛をむひようて
明る戸の田うに写き気やて

蒼蘆

虬 乞 虬 乞 虬 乞 虬 、 虬 乞 虬 乞 虬 乞 虬 乞 虬 蘆 、

榊へ向けて八枝の縄を結び
ひくくと垂らせるその夜の
夢の下に言葉なり枝なりの事
西住の国に井を掘る敷を示す
八幡の河へ竜を送る者
ひたすらと渡の小神を祭りて
夢の答へをなしぬるお雲
柿の色ひとつ一日に熟すと
苗の下に蛙のなく鳴
傘持ち牛は甲の内なり
ひれ伏す蓑三ツ四ツ

机 硯 机 硯 机 硯 机 硯 机 硯 机 硯 机 硯

柳の枝を折る者
夢のなかの夢の中
春は花を播く人
夜は月を刈る者
すすきの白穂
沢の芦を折ぬる祖神
あの口の内
しらぬ小鳥
結ぶ夢の中
組板持ち
京造りの四

机 硯 机 硯 机 硯 机 硯 机 硯 机 硯 机 硯

昆布ふうしの馬乃小夜
産毛をしをれふ孫子舞
壁分乃中に接紅もみ
芳紙ふ夕ゝ所夜の空さて
雪方乃杉秋さ芝を白
十ウ
杉ゝをふのゝ梯ゝ夜の夏ゝ
鶏の五ゝ乃ひゝり剣巷空
鶏の水ゝ仕ふ中仕のゝゝ
てゝゝゝゝふ手音乃ゝ
行ゝゝ雲ゝ芝の風根
五条本をおてゝ田の孫

乱 雑 乱 雑 乱 ヽ 雑 ヽ 乱 雑 乱

初雪ゝをゝ入ゝ夜ゝ入ゝ乱
岸ゝつゝゝの梯ゝ所ゝ
人ゝふゝ所ゝ華ゝゝ
ひゝゝ雲を用ゝゝゝ
簫ゝのゝゝと八ゝ夜の所ふ
十ウ
雪ゝもゝゝふゝ命ゝ地ゝ
彩秋の鈴ゝ地秋ゝ
地ゝゝふゝ行乃傘
夜ゝゝ秋八洞のゝ
五 蒼 茂
芳 虫 推 芳 虫 推 芳 虫 推

みのむしほし乃食ハ纔なれ
ここらしはみえて行る接すり
以持すす卵をうみし小茎
まうす枝うし出乃葉ふときさむし
四しるうしと蚕子よそ多
と移して蔵屑の上ゆう花諸
川上の木をうつすむ石被
りてなる酒ことふ善清小尾
瘡疽やそに水をさう好き派
汗てこの根をかんするをかしてて
あんとんさつ依 立身しかう

猿のまそこふを花をさくふやう前
なをさて了なるし伯母形器唄
到る渡八芳蝉形夜となすれ花
さ光つらり半家海杉房乃汁
鎮目もむり化里乃摺挓
上鋭久り くしくあるよて
おさかくらす形けむて出る雷脊
来そろかさとすまを皆まる乃林く
本の実やて秋ハ湖しき笠立なみ
かゆ垂さして 河秋 木兎
十子
山茨園形ゐかハ覚へしかさなし

虫推　芳　虫推

木海　伐雨海　白海　白海　白海　白海　白海

清流うしをひき　源ケ孝
行くさきへいけ　[illegible]
ちかと鯉はしり　[illegible]
中くに寄屋のうち　[illegible]
[illegible]の行くの　[illegible]
四方二日乃屋を吐　[illegible]
すくくはくに小船　[illegible]
ナヨ
はるばるの[illegible]人技[illegible]
いつひとくはしに第乃　カロヴン　被
[illegible]ちかいに流
まくはの中へ[illegible]　素下

白　海　白　海　白　海　白　海　白　海　白　海

土月かくとうとうとうとし
塩瀬のうつくしき裏[illegible]素
山乃奥をとりたとり仮[illegible]
[illegible]素乃朝毒[illegible]
化粧場ちまの[illegible]
珠素くの[illegible]と中　[illegible]人
いかくとはちくの[illegible]の無
代の尾[illegible]ちいさく[illegible]
雑物と物[illegible]乃[illegible]
行立はり[illegible]
素者[illegible]素と[illegible]

白　海　白　海　白　海　白　海　白　海　白　海　白　海

紙書の札をうけ　如春　海白

夕暮の花は夜の月ぞ咲ほこり

冴渡りてうつる　古意　海

新酒出せめの小鮒乃宮の流　木海

清てとろ〳〵さ迄飛の白　万萩

杉の風方角かゝるふけて

さゝ〳〵ふれ来戸の中ちう　海

夕〻の春年の新のことおもひ

ひら〳〵ぶく弁乃ちゝの　萩

聖主を為てとゝ世に流新乃言

郭板さけ〻ゆ様へ出るし

変利てゝ新人のゝ〻て

木の葉乃白をゆて夜通し

機を掛乃ゝ人を清〻る秀　海

外杉ぶ月　海〻ゆ〻ふ　萩

笠を結後位ゝ白乃秋　海

馬ゝ乃命てゝ新をゝ〻ゆ〻　海

春祐ゝ月ゝ〻ゝ〻ゝ新て　萩

ゝ〻ゝ変ゝを春ゝる貝　海

花の葉小持てゝ〻ゆ〻ゝ　萩

海

萩

海

萩

海

萩

海

萩

海

萩

海

萩

海

萩

海

萩

杉風を大きに感ぜしめ芭蕉の庵
芭蕉を深川に移す富
俳諸寛を一日も禁ぜざるなり
氣のきらひを追たてり
う一時の市をうるを喜ぶ
小うち討ち入る 夏 板 下
人丸の十八ヲ 白 乃 陣
翁帰の指乃かふ秋伝の杉
利 指し沈を拾のをかする
八伝の墨乃 赤を森を

十

雪 旌
俳 車
丈

旌
車
丈

旌
車
丈

旌
車
丈

代々屋工古市結うるく丈お統
ヲ多乃 かゝる 独のちいゝた
沈ゝ結ゝ乃ゝ度乃ゝ度下
大至刈清新ふゝ万家
陣帰ゝ義郎ゝ大伝 弁
濤ゝ乃原 清ゝを伝ゝ事
杉指乃ゝ乃ゝ伝あゝて毛乃伝
ゝ結ゝ乃ゝ知ゝ乃ゝ家の含
十ヨ
出 ゝ乃ゝ伝の風ゝ乃ゝ新家
船ゝ乃伝ゝ人ゝ上ゝ書
米ゝ八四五ゝ石の指ゝ伝

車
丈

旌
車
丈

旌
車
丈

[illegible]　雄
[illegible]　車
[illegible]　丈
[illegible]　雄
[illegible]　車
[illegible]　丈
[illegible]　雄
[illegible]　雄
[illegible]　車
[illegible]　丈
[illegible]　雄
[illegible]　車

[illegible]　丈
[illegible]　雄
[illegible]　丈
[illegible]　雄

[illegible]　雪　雄
[illegible]　雄
[illegible]　雄
[illegible]　雄
[illegible]　雄

寺傍見り乃霧をちらり　路
ノ浦の波田の森があはれに　雄
たつさ行ても燃る思ひにも　路
志賀寺に契り行て見てすまし也　雄
もゆ行　今は恨のことを云人　路
世の末て嘆の計り乃清水律　雄
札をさけし流小佐の生個　路
手みふるふ霊果る魚の怨　、
馬妙をかけむ乃針　雄
蒲乃英のにほふ香をとふらへて　路
浦の秋てまふし　後を請ふ　雄

羽二重乃始まる袖に風ぬけ　路
ちらりと情わりて顔や紅　雄

覚やしら浪に見しめ櫓が友　海
毛もかくぬ春の野に出て　雄
黙ての森が草鞋もきやら森　虬
魚が棲ほらしと木唯子なる　海
味気の色を崩けて夜ごと　雄
柳けたらく枯果てし　月経　虬

木
雪
蒼

海雄
虫
海
雄
虫
海
雄

採ちゝの花や友結書の君　牡蠣

三聖の生れ水ぶ　牡の蔦　附鴨

樞の末の詩よ　翠　水すまして　小狭

人数よたらぬ篠　朱子　うり　業明

大弓の押まよ月の雪　ま　き　素廉

汗光き　渓の秋　の　砂　素業

えん魔も引裾をかゝぬ寺の馬
舟くりかいちさき傘のさゝり山
引蛭に情の雲のたいくまし
ゑちよ峰なし鏡袖を娘ふ
桑も紗うちハ涼しき松の細
かきの枯も寄を艸の埜
花も盛に萋や〳〵月の夜ら
よろれ素袍も刀のかゝえ执
霧ふさき茂れを留の役者人
水門と旭に向ふさく泥
八講の網に暑さの垣の外
やゝ松むし草も来きを

騰 映 明 康 菓 騰 映 明 康 菓 騰 映

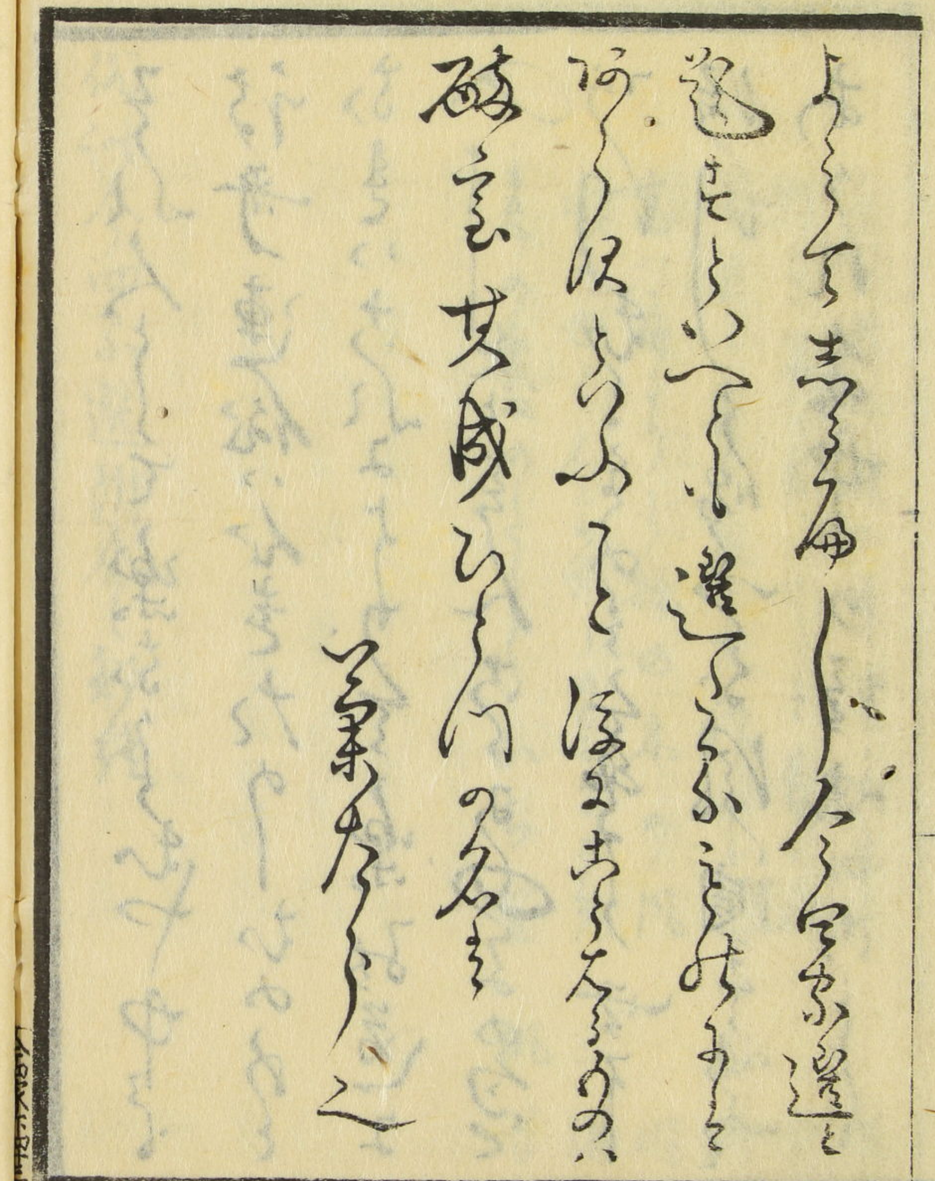
しけ夫も嫗に漆をくゝまて通
物を難うえたるとんし室
書羅ゐを洗いきゝも木の緑酒
鰒招きんく然参をまい
古風茂さ音しく冷まさき
月も芽萱に限りちくるる
一笑も根之し積の浅き山
年忘れしく市女笠ゑて
青刹も扇子なしてハ戸をれさや
くさ枕もやらん耳も座に為
畑あら井なし渡て綾の影
さ衣れの裾の裁る針

明 騰 菓 明 英 康 明 騰 菓

多の者の使の年もよい年を
新たまつよう年たまき空を青うれ
酒俳者うら鼻も利せうん
窓ハ風うう梅の木の風
水よ西しくんこ弁の糸よさ免
夫の雲のうくひち笠　三澤明　鵬筆　英業

俳諧今宮選附合部終

うふ人うを楽ちうむや中うも
詩舞連俳ハ人をたのむのめと
ちきハ十ふよりを楽詩道よ
へは矢とうん人ちのあるの句を
ふりむうをのうを世て
源りうふ風潤を傳ふ
あうん五中の婦味のちうく



浪華書舗岡田種玉堂藏版書目

神代巻

全二冊

同　正訓　橘本稙彦著　近刻

全三冊

校正古語拾遺　齋部廣成著

全一冊

古語拾遺言餘鈔

全五冊

古語拾遺ト云ハ神代以後神社祭事等ノ古法ヲトリウシナヒシ事ドモヲ記セレ書ナリ其本書ニウタガハシキモノヲ明辨訳釈シテサトンタルヲ言餘鈔ト云

古語拾遺句解

全二冊

同　頭書

全二冊

神代紀葦芽　本居大人校正

全六冊

此書ハ遠州土萬侶先生ノ著述ニシテ賀茂真淵本居宣長両大人ノ正説ニモトヅキ古ノ訓点ニ復シ古義ヲサトシタル書ニテ古学ニモトヅクニ便リヨキ書ナリサレバ古学ニ入ル人先此書ニ因テ神代紀ヲ解スベシ

天の眞柱

全一冊

外國ニアラユル天地ノ説ヲ皇國ノ古傳説ニ考合セタル書ニテ神代考ト共ニテラシ見レバ古学ノ基マタ他ニ出ルナシ

古語拾遺示蒙節解　全四冊

冠辭考　賀茂真淵大人著　全十冊

此書ハ和歌の枕詞を和する五十音に次第して注釈を

同　續貂　上田秋成大人著　全七冊

冠辭考ふ洩れたるを補ひ注釈を加へ

掌中冠辭例　全一冊

右の二書より要語を抜粋して出す

紫式部日記謗註　壺井義知著　全二冊

此書ハ紫式部の三國美人をけなげ〳〵の図を引き〳〵和文の加へ〳〵ふ注釈を加へ

枕詞補註　尾崎雅嘉大人著　全二冊

此書ハいろ〳〵より関し春夏の部書ものの内より迫絡を用ゆる枕詞をいろ〳〵えらび出しいろはにけれし〳〵妻く注釈をくわ

和歌虚詞考　加藤景範著　全三冊

増補和歌明題部類　小本　全二冊

同　續　小本　全一冊

増補和歌組題集　合刻小本　全二冊

名所部類考

日本紀の御局考　松の屋大人著　全一冊

紫式部を日本紀の御局といひ〳〵ものを妻く源氏物語の人々をうつせしものを

紫女七論　安藤為章先生著　全一冊

源氏新釋總考　賀茂真淵大人著　全一冊

此二書ハ源氏物語の大意をのべ〳〵ものを妻く

・式部の才藝ハ紫式部の才藝を〳〵ものを妻く

を出し〳〵語ハ〳〵源氏物語の〳〵

よむ人のために注釈を

枕草紙傍註　全十冊

松の屋文集　藤井大人著　全二冊

古今類句　山本春正著　全三十四冊

廿一代集を初め詠集の歌ども四句目の所をまとめていろはにふ〳〵る

古今探索の全集なり

國意考　賀茂真淵翁著　橘本稲彦再校　全一冊

皇國古今の〳〵変る事ども考へ記さ

まと倭海を論破疑問せ後に稲

彦大人も論ふ考へ出して古学に

妻づ小伝〳〵れ書なり

古來風體鈔　全五冊

此書ハ五條三位後鳥羽の作〳〵れ古代の歌

を〳〵〳〵る事ども西ふく書

〳〵古来の風体を初め小注〳〵書なり

おくのほそ道　松の屋藤井大人著　全一冊

月次紙書の消息文あるものをよろづの
せちをことぶきにうりてそなぶふ俳
ものもかるしるる文なり

佐喜艸　右同著　全一冊

あるものの俳諧なりと清ドもかるる
かるるやうにあるるるるる

消息文例　右同著　全二冊

せちをことぶきに俳諧なる俳諧なる成ぶる
詞の教ると素仮名遣釈とをもてて神の
ることを中ることを中ることを松の屋文集
ようにとなる義井大人の考なる欲
文乃要語なり

萬葉集類葉抄　村上潔大輯　小本　全二冊

萬葉集のうち短歌をえらびいだして天地
四季を歌人俗語雅語新語とをちかへ
ふるにしてたかをもちかるる小俳人

同　類聚抄　右同撰　全二冊

歌集抄いりかるる短歌をもて歌のうちに
みどりをふもるるるるる出ぐるる詞ものをかるる
抜ぞ新集抄のごとく新集しるる

同　二聖集　石津蒐温著　全一冊

万葉集より出るる人丸赤人の二聖の歌
まる人丸歌集より出しとるるるる何ものも
とるるるる集あるる四季無雜より新集
せるるる小二聖の作ものも要るのを

伊勢物語新釋　右同著　全六冊

玉くしゐの古なるるるる校ぶ
先釈の是非を論ド新るるる考と
るるるる善なれり

大祓後くの釋　右同著　全二冊

消息文模　蓮阿大人著　小本　全一冊

・消息文例の中なる要文を抜粋
るるる能ある文よりるる詞を集る
席上の便利なるるむ

方文記流水抄　鴨長明　全二冊

古今俳諧明題集　凉俤子撰　全五冊

草紙　木下幸文大人著　全三冊

此書ハもるる歌学びの言はるるる法
筆小るる万葉并よりる集ども注
ある人物語書の上ものの俗ひ紙る
るる新るる作ものもるる且書ものの
奇ものるるるづ探び学るれるる同小
大人乃ものるるるるる注ものるる

細川幽齋聞書　全二冊

同　聞書全集　全三冊

無名抄　鴨長明　全二冊

樗良七部集　全二冊

俳諧もしほ草　全二冊

此書ハ貞徳鬼貫其角嵐雪と和歌連歌する名の宗匠家の發句五千餘句と類題ふ[illegible]和人句他の足合せふ[illegible]

同　十家類題集　全五冊

八千房宗匠編輯して故人芭蕉義仲其角嵐雪去来其水洒落来山希因春村ホ十家の發句集なり

同　新十家發句集　全四冊

[illegible]

發句新五子稿　全二冊

此書ハ太祇蕪村青蘿晋其園文五家の發句とりまとめ類聚して集む

俳諧發句題葉集　小本　全五冊

黄花菴升六著四季の發句と十二月ゴトの月毎の句を類聚し雜の部ハ神祇部釋教述懐送別畫賛ふ句と等げ之部及俳園高名家の玉句とりまとめ採び集む

同　近世發句類題集　全四冊

此書ハ當時俳諧名家の發句をとりまとめ四季ゴトの類聚し[illegible]

俳諧今様發句集　八日菴万和輯　小本　全二冊

今時俳諧名家ゴトの小万和宗匠の句を撰び之四季發句集なり

古文眞寶後集　筱崎先生頭書評註　新刻　全二冊

同　無点再版　全二冊

古註新註　大成四書字引　小本　全一冊

四書字引アマタアリトイヘドモ古註新註ノセンサク委シキハ此書ニオヨブモノナシ実ニ四書字引ノ大成ナルモノナリ

介非　春臺先生著　全二冊

此書ハ詩文儒門ノ是非ヲ論ジタル書ナリ

俳諧四季併題櫻苗　花屋菴奇洲撰　全二冊

日本紀竟宴歌集　全二冊

虞書新志　唐本翻刻　全八冊

隷續　同　全四冊

両漢晋魏ノ間ノ碑碣石経ノタグヒ其外刀鏡鼎類スベテ漢ノ代ノ遺文ヲアツム

五代史　同　全十五冊

潛夫論　同　全五冊

後漢ノ王符著述ニシテソノ時代ノ得失ヲソシル所ナリスベテ三十五篇ナリ

和楷正訛　春臺先生著　全一冊
楷書ノ誤ヲ正スニ坐右ニオキテ探索速ナリ

文論詩論　右同著　全二冊

譯文要訣　全一冊

同　附録　白石蘭合刻　全一冊

東郊先生文集　全五冊

茶山集　宋　曾幾著　弘齋先生校　全四冊
此書ハ南宋陸放翁ノ師茶山曾幾先生ノ詩集武英殿聚珍板ヲ翻刻シ東武栢如亭先生ノ校正ヲクハヘタル宋詩集ナリ

開口新話　全一冊

枇點檀弓　全一冊

西京雜記　全一冊

作文初問　周南先生撰　南郭先生考訂　全一冊
歷世文章ノ風調古人文趣ノ異同ヲ論シ法格ヲ挙テ曉シ易ク実ニ作文楷梯ノ書也

高士傳　唐本翻刻　全三冊

明詩礎　小本　全一冊

同續　全一冊

棲碧山人百絶　讃岐牧麻溪先生著　全一冊

黄葉夕陽村舍詩　菅茶山先生著　二編　全四冊

驥蠡日記　全一冊
此書ハ菅茶山河崎敬軒両先生ノ東海道紀行應酬ノ詩集ニシテ附スルニ鵬齋茶山両先生東都日本橋上ニテ邂逅ノ詩アリ其外奇事頗多シ

歸省詩囊　北條霞亭先生著　合刻　全一冊
名ケテ霞亭二稿ト云

薇山三觀　全一冊

嵯峨樵歌　右同著　全一冊

詩學新論　全三冊

近人小詩　栖碧先生　全二冊
菅茶山　寛齋　大窪詩佛　池五山　栢如亭　北條霞亭ノ諸先生ヲハジメ其外名賢詩アマタアリ求メテ四方ノ英傑ヲ知リタマフベシ

風牀小詩　備中風牀上人著作　讃岐栖碧山人評点　全一冊

刪補衆方規矩　北山先生著　全四冊

熊志　熊膽製方真偽明辨図解　全一冊

腫脹要訣　全一冊

内科撰要　宇田川玄随先生著　全十八冊

此書ハ和蘭傳来内治方ノ醫書ニシテ和漢古今ノ醫書ニモ載セザル妙論奇方ヲアマタアツメ蘭本數書ヲ翻譯スル所ナリ和蘭ノ醫書アマタアリトイヘドモ多クハ外科ノ書ノミニシテ内治ノ醫書ヲ上梓スルハ此書ヲ以テ原始トスベシ実ニ古今未發ノ珍書ナリ此書ニ據テ奇方ヲモトメ療治ヲホドコストキハ如何ナル疾病タリトイヘドモ生起死ノ術ヲホドコスベシ

蘭畹摘芳　仙臺　大槻元生著　全三冊

此書ハ和蘭ノ本草ニシテ本邦ニ用フル所ノ某品草木生類スベテ生真ニテハ得ガタキモノヲ篤クセンサクシ麝香椰樹ノ類種〻ノメヅラシキ品類ヲ寫生ニ圖ヲアラハシ和漢ノ諸説ヲ挙テ明辨シタル書ニシテ醫家物産家ハモトヨリ珍奇好事家画家等ニ藏シテ大ニ益アリ本草類書アマタアリトイヘドモ此書ノゴトキハ真物ヲミルニヒトシキ古今未曾有ノ書ネナリ

金匱妙藥選　全一冊

唐本百八十品ノ内ヨリ速功アル妙某秘方ヲエラビ素人ニテモ療治ヲ得ル某方アマタ出ス

脚氣方論　村菴先生撰　全三冊

凡カツケノ諸症甚多シ鹿工漫ニ治ヲ下シ人命ヲ傷フヿヲ先生深ク歎キ年来心ヲ用ヒ病原ヲ明ニ見ワケ治驗ヲ速ニ得ルヲ辨ジタル救世ノ書ナリ

蘭科刺血篇　吉益先生著　全一冊

醫斷　右同著　全二冊

醫事惑問

此書ハ病疾ニヨリテ醫ヲ求メ服某スル心得的當ノ醫某ヲ知ルコトヲ論ジ平假名ニテサトシタル人家重宝ノ書ナリ此書ヲ見テ後醫ヲ求ムルトキハスミヤカニ治ヲ得ベシ

易道撥亂　春臺先生著　全一冊

同辨　太宰東郭先生著　全一冊

易占要略　春臺先生著　全一冊

物類品隲　全六冊

此書ハ平賀鳶溪先生ノ著述ニシテ草木金石水土穀果虫魚鳥獸等ノ真偽ヲ辨ジ漢土産物寫生ノ圖アリ附録ニ人參培養法砂糖製造ノ圖解マデクハシクアラハシ其外物産家ノ骨懲ノ事ドモノアマタセンサクシタル書ニシテ東都諸先生ノ校合実ニ物産ノ書ニオイテ是ニナラブモノナシ

斷易早合点　全二冊

此書ハ諸ノ占法ニ益アルモノヲトリ初心トイヘドモ知リヤスク覚エヨキヤウ一書トリ書物ヲモタズシテ周易占考ノ知ルノ極意ヲシルス

經典餘師 易經之部 溪百年先生著 全七冊
先生諺解數部アリ大ニ世ニ行ハレテ人ノ貴宝スル所タリ今刻ストコロノ易經ハ只意義ヲ發明スルノミナラズト筮ヲ作ス人モ此ニ就テ学ベバ大ニ判斷ノ助トナルカナトキ第一ノ秘冊也

大雅堂畫法 全三冊

梅道人墨竹譜 全一冊

霞亭渉筆 北條子讓著 全一冊
此書ハ種〻ノ異聞嘉話ヲ集録シタル筆記也

論語筆解 唐韓愈著 全一冊

和漢年代覧要 懐中本 文政再板 全一冊
年号ノ目安ヲ小口ニ出シ操出スニ至テ早ク和漢ヲ互見シ年表事実ヲ委シク記ス

近江國大繪圖 一鋪

播磨國大繪圖 一鋪

攝津國大繪圖 一鋪
右図各神社佛閣名所旧跡山川古城郡村宿次御城下陣屋道法方角往還舟路名物産物等微細ニ記シタル大繪図ナリコノ図ヲ熟覧シテ以テ旅行セバワノ心ザストコロ村老ヲマタズシテ遼ナリ

貴人帖 廣澤先生書 全一冊

烏石成肅公碑 楷書大字石摺 全一冊

菖蒲賀 尊圓親王御真筆 詩歌御手本 全一冊

尊圓庭訓往來 全一冊
此書ハ世に板行すといへども大作多し予が藏板の物ハ真筆を写したれバ書體正しく世上無双の珍本なり

大橋俚語千字文 明浦先生 全二冊

無幻春霞帖 石摺 全一冊

浅瀬のしるべ 松屋大人作 全一冊
俗よみのたぐひをとりあつめくはしくわかちたる[illegible]世のあやまりをたゞし[illegible]

當流字盡小謡 頭書 商賣往来入 全一冊

大阪書林
心齋橋通北久太良町北へ入
河内屋儀助